

2017年度（平成29年度） 北京教育交流訪問報告書

北京市教育交流推進事業（10年次）

教育交流推進事業の目的

〈生徒〉

学校訪問における教育交流ならびに異文化体験を行うことにより、これまで身に付けた力を試すとともに、多様な価値観に気づき、自身の視野を広げる。

〈教員〉

教育的なテーマについての教員との協議や異文化体験を行うことにより、教員としての資質能力の向上を図り、日々の授業改善に生かす。



日程 2017年（平成29年）12月24日（日）～28日（木） 4泊5日
訪問団 中高校生 19名・教職員 5名・事務局等 5名
訪問先 北京市第159中学校 首都師範大学第二附属中学校
天安門広場 故宮博物院 万里の長城 王府井 他

福山市・福山市教育委員会



教育交流

北京市第159中学校
首都師範大学第二附属中学校

意見交流

これまでに身に付けたコミュニケーション力や主体性などを発揮し、身近なテーマについて英語を使って意見交流をしました。

生徒

～ くらしと文化 ～



私は、今回訪問することが決まってから、中国への関心が、今まで以上に大きくなった。しかし、北京の生徒は、私の想像以上に、大きな関心を日本にもっていたので驚いた。また、国がちがっても、同世代の人たちとは、興味関心や考え方が似ており、相手が何に興味を持っているかを知ろうとすることが、分かり合うことにつながると感じた。(中2)

相手の表情やジェスチャーなどから一生懸命理解しようとしたが、難しいときもあった。もし、ここで学校での英語学習を生かすことができれば、話に出てきた日本のアニメを知ったきっかけや内容などについて、より交流を深めることができたのではないかと感じた。(中3)

～ 平和 ～



交流では、東日本大震災の事について英語で話した。北京の生徒は私の話を聞いて「自分以外の人にも伝えていきたい」と話してくれ、とても嬉しかった。私はコミュニケーションをとることが少し苦手だけど、北京の生徒達と折り紙を折ることで、日本の折り鶴について話し合う事ができた。途中、英語を聞き取れない部分もあったが、大変貴重な時間になった。(中2)

私たちは、「平和」を思いやりや分かり合おうとする気持ちから生まれるものと考えた。そして、自分の足でいろいろな場所へ出向き、自分の目や耳で知ることが、思いやりや分かり合おうとする気持ちにつながると感じた。自分自身のスキルアップをし、先入観を捨てているいろいろなことにチャレンジしたい。また、今回知り合った中国の友達との交流を大切に、国際社会を生きる一人としてどのように社会に役立てるか考えていきたい。(中2)

～ 異文化理解 ～



異文化を理解するとは、お互いの考えを受け入れることだと思った。自分の身の周りにあるもののルーツを探ることも他国との意外な共通点やつながりを知ることになり、異文化理解になると感じた。また、自分の英語に対して「Your English is good!」と言ってもらえた時はとても嬉しく、中学校の英語の授業で、コミュニケーションをしてきた成果だ!と感じた。(中1)

私は、中国の方の目線から日本を見たとき、日本はどのように見えているかを知ることができた。また、新たに今回の北京訪問で私の中国に対する『イメージ』も変わった。中国で環境に関して多くの取組が行われていることを知り、その効果を実感した。そして、もっとお互いの国のことを話したり聞いたりしたくなった。(中1)

～ 学校生活 ～



体育大会の応援合戦のダンスを動画で紹介した時、歓声が上がり注目してもらえた。それは、自分が誇りとしているものを、自信をもって発表できたからだと感じた。また、資料の見せ方を工夫すること、聞き手のことを考えた話し方をすることがプレゼンテーションの基本的な心構えだと思った。(中2)

日本の学校生活について紹介することで、自分が普段していることの意味や目的を改めて考えることができた。北京の学生は日本の学校についてとても興味を持ってくれ、写真を覗き込むように見ながら話を聞いてくれた。自分たちが提示したテーマから話が展開して深い交流をすることが出来、嬉しかった。(高1)



教 員

生徒に付ける力とそのための取組等、教育的なテーマで意見交流をしました。



教育環境や体制はそれぞれ違っていても、北京の教員が付けようとしている力は、私たちが育成を目指している表現力やコミュニケーション力等の付ける力と共通していた。今回、私たちの心配をよそに、日々成長し、生き生きとした表情になっていく生徒の姿を間近で見て、子どもたちが持っている力を信じ、いろいろな経験をさせることが大切だと改めて感じた。(小学校教員)

北京市では各教科で週一回会議・研修を行い、学校間で授業内容を共有することで、市が一体となって教育力の向上に励んでいるようだ。福山市でも、市内一斉研修をはじめ、日頃から学校間で授業の内容を交流・意見交換をする機会がある。そのような交流の場を活用していくことは授業力向上のために必要なことだと感じた。(中学校教員)

自分自身の授業や生徒一人一人への手立て等を見直す機会となった。今回の訪問を通して強く感じたことは、教員が毎日の授業や学校生活の中で“しかけ”を作ることが、生徒自身の主体的な学びにつながるということである。(中学校教員)

特に学力差がある場合、生徒とどのように関わって指導するかについての話をした。休憩時間等を利用して個別指導をするなど、国は違っても指導方法は同じで共感する点が多かった。熱心に、そして真摯に生徒と向き合い奮闘する様子は、どの国も共通していることが分かった。今回の研修においてグローバル社会で活躍する人材を育成するには、指導者自らが多様性を受容し、尊重する態度を示すことが大切であることを学んだ。(高等学校教員)

子どもたちの学力を高めていくには日々の授業がとても大切であることを再認識することができた。子どもたちによりよい教育を行えるよう、① 子どもたちが自分の考えをもち、相手意識を持って伝える場を設定する ② 子どもたちに合わせた学習内容・指導方法を日々追究する という2点を実践しようと考えている。(小学校教員)

授業参加

英語、美術、体育、音楽科の授業に参加し、話し合いながら問題を解いたり、一緒に活動したりしました。



なんとか自分の英語力をフル活用して、分からない単語の意味を北京の生徒に聞き、一生懸命授業に参加した。その生徒は、分かりやすく、優しく教えてくれて嬉しかった。

(中2)

北京の生徒は、先生から指示があるとすぐにその事について考え、各自意見を持ちながら自らグループの人と意見交流を行っていた。お互いに自分の意見をはっきり伝え合っているの、確かなグループ・ディスカッションが成立していた。私は、一人ひとりの自ら考える姿勢が、より良い授業に繋がっていくと思った。(中1)



「私と同じ中学生で、このような積極的な声掛けや、英語での対応ができる人がいるんだ!」ということを知った。自分の夢をかなえるためにも、「もっと積極的にコミュニケーションをとったり、英語の学習を進めたりしよう」と決意した。(中2)



体験活動

学校生活の様々な場面で、一緒に活動したり交流したりしました。



無形文化財レッスン (中国結び、切り紙、面塑)

中国の先生は、中国の歴史や文化についての授業を、母国を愛する心や先人の努力を忘れないための大切な授業だと言っていた。自国について深く理解することは、自分の視野を広げるためにも重要だと感じた。(中1)

休憩時間

部活動



漢詩の朗読をする部活動を体験した。堂々と朗読したり、抑揚の付け方や気持ちの込め方を、図を使って説明したりする姿から、自国の文化への誇りを感じた。(中2)



昼休憩、大縄跳びをしている先生と生徒が「一緒にしよう。」と誘ってくれた。8の字跳びに挑戦することになったが、タイミングが難しく上手に跳べず、英語でのアドバイスも、理解できず焦るばかりだった。何とか聞き取れる英単語とジェスチャーでアドバイス通りにすると大成功!みんなと喜び合った瞬間は、本当に嬉しいものだった。言葉の壁があっても、相手に伝えたい、分かり合いたいという気持ちを持つことが、コミュニケーションに大切なことだと実感した出来事だった。(中2)

異文化体験

中国が誇る世界遺産を自分の足で歩いたり、食事や買い物をして、異国の歴史や文化に触れました。

万里の長城



万里の長城、天安門広場はとにかく大きかった。そして、この代表的な2つの建造物から中国の歴史の長さを肌で感じた。世界にはまだ僕の知らない世界が広がっていることを改めて実感した。実際に体験することで、さらに学習の幅を広げていきたいと思った。(中2)



故宮博物院は、とても広く、部屋数も多くて、足が疲れるほど歩いた。屋根の走獣の数で、階級を表しているということを知った。太和殿の玉座も威厳があった。中国の誇る歴史遺産をこの目で見て、壮大な歴史を感じた。(高1)



天安門広場・故宮博物院



中華料理



王府井



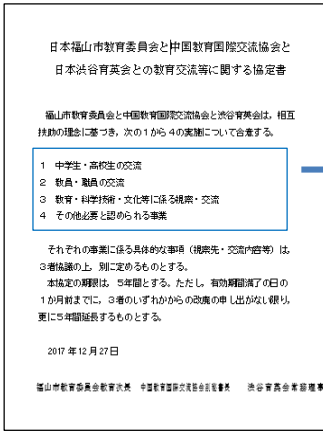
北京では食事の際、丸い円卓をみんなで囲んで食事をした。日本でも食卓を囲んで食事をするが、どちらも会話が弾み食事を楽める。どちらも、人との関わり合いを大切にすることが共通していると感じた。もしかしたら、それは万国共通かもしれないと思い、調べてみたいという興味がわいた。(中2)

文化に対する見方が変わった場面の一つは、セミを食べたときだ。食べてみると香ばしい味がしておいしく、また食べてみたいと感じた。自分が最初持っていた印象は、自分がセミを食べない文化に身を置いていたため、そのように感じたのであって、異なる文化に身を置き、経験してみると新しい見方ができた。自分は文化というフィルターを通して世界を見ていることを痛感し、文化を尊重すること、挑戦してみることの大切さを、身をもってより強く確認できた。(高2)

新たな協定

本市教育委員会、中国教育国際交流協会及び渋谷育英会との間で、新たな協定を結びました。

調印式

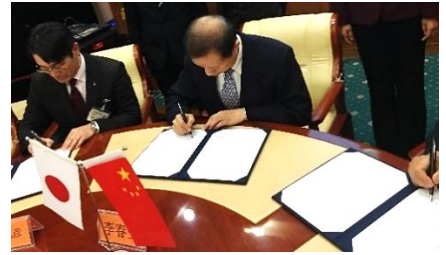


協定書

〈協定内容〉

- 1 中学生・高校生の交流
- 2 教員・職員の交流
- 3 教育・科学技術・文化等に係る視察・交流
- 4 その他必要と認められる事業

※ これまでの中学校訪問や文化施設の見学に加え、スポーツや科学技術・芸術文化等に関する施設見学等も可能になります。



協定書に調印



関係者を交えて記念撮影



記念品交換



円卓を囲んでの歓談

レセプション

新たな調印を結んだことを記念し、今後の友好をさらに深めるためにレセプションを行いました。

訪問の行程

24日(日)

出発式
福山発
広島空港発
北京首都国際空港着

25日(月)

万里の長城
王府井
雑技団鑑賞

26日(火)

北京市第159
中学校
天安門広場
故宮博物院

27日(水)

首都師範大学第二
附属中学校
調印式
レセプション

28日(木)

中国茶体験
北京首都国際空港発
広島空港着
福山着
解散式



出発式

今回、一緒に北京を訪問した仲間達からも沢山のことを学べた。人の為に一生懸命になってくれる人達で、別れる時は、とても切なかった。

(中2)



解散式

教育交流訪問団派遣状況

単位(人)

| 年度 | 2008 (H20) | 2009 (H21) | 2010 (H22) | 2011 (H23) | 2012 (H24) | 2013 (H25) | 2014 (H26) | 2015 (H27) | 2016 (H28) | 2017 (H29) | 合計 |
|----|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-----|
| 人数 | 生徒 | 20 | 22 | 20 | 20 | 19 | 20 | 20 | 20 | 19 | 200 |
| | 教職員 | 10 | 12 | 10 | 8 | 8 | 9 | 6 | 5 | 5 | 78 |

学習会・報告会

北京での学びを確かなものにするために、学習会と報告会を行いました。



- ・事前学習会 3回
北京の生徒との意見交流を行うための学習
- ・事後学習会 2回
報告会に向けての学習

「第10回北京教育交流訪問団報告会」では、教育交流の概要報告、生徒報告、教員報告、パネルディスカッションを行いました。

生徒報告



〈内容〉

- ・意見交流の内容や気付き
- ・教育交流を通しての学び

教員報告



〈内容〉

- ・生徒の姿からの気付き
- ・教員交流をしての考察

パネルディスカッション

〈内容〉

- ・北京教育交流を経ての自分の変容
- ・今後に生かしたい学び

〈参加者〉

- ・コーディネーター

第1回参加者 小谷真子さん

- ・パネラー

第7回参加者 田林佳純さん

今年度参加中高生 4名



チャレンジ

自分が参加して、もっと日本や世界の事を知りたいと思い、新聞をよく読むようになりました。また、チャレンジすることの楽しさも知ったので、大学入試や教員採用試験にもチャレンジし、今につながっています。(小谷さん)



原点

今思うと、北京教育交流が、自分の考え方や進む道を決めた原点になっています。中国文化や言語への関心が高まり、進路選択や、中国の伝統楽器を習うきっかけになりました。(田林さん)



積極性

自分から積極的に動くようになりました。学校行事や部活動で大きな仕事を任せられ、仲間と協力してがんばっています。(高1)



挑戦

勇気を出して自分から北京の生徒に話しかけてみるなど、多くの挑戦の機会があり、挑戦の大切さ、楽しさを知りました。(高2)



出会い

北京の生徒、訪問団の仲間、お世話になった方々、そして今までの壁を破った新しい自分など、たくさんの出会いがありました。(中1)



経験

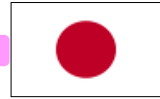
この経験をきっかけに、リーダーシップを発揮できるようになりました。今は、生徒会長としてがんばっています。(中2)



ディスカッションには、会場の教員や保護者の方々にも参加していただきました。

最後は、パネラー、コーディネーターが北京教育交流を通して感じたことをキーワードでまとめました。

北京市教育交流推進事業の経過



2007年（平成19年）

- 5月 広島大学北京研究センター長佐藤利行教授を通じて、北京市教育委員会劉利民主任から教育交流の提案を受ける。
- 8月 福山市教育委員会担当者が、北京市教育委員会を訪問し、意見交流及び情報収集を行う。
- 10月 羽田皓市長、小丸法之渋谷育英会理事長、蔵本久市議会議長、高橋和男教育長他7名が訪中
福山市教育委員会と北京市教育委員会との教育交流等に関する覚書締結
◇帰国後の市長会見骨子◇

- 本市と北京市の中学生・高校生や教職員の交流を進めていく。
- 次代を担う若者が隣国との交流をとおして、国際的視野や国際感覚を身に付け、国際社会の中でたくましく生きる力を付けることを期待する。



2008年（平成20年）

- 4月 北京市教育交流事業【中・高校生派遣】【教職員派遣】募集要項策定
北京市訪問派遣費補助基準策定
- 7月 現代の中国画と日本画展 ふくやま美術館 3,844人入館
- 12月 北京市国際教育交流センター・北京市大中中学校国際交流団 21人表敬訪問
第1回北京教育交流訪問団派遣（24日～28日 中・高校生20名、教職員10名）
・訪問先：北京市教育委員会、海淀実験中学校、北京市西城外国語学校
・見学先：天安門広場・故宮博物院、天壇公園、万里の長城、北京動物園等
- 2月 報告会開催 166名参加
- 3月 報告書300部作成、関係者に配付



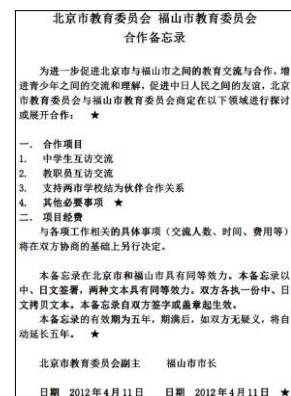
2009年（平成21年）～2011年（平成23年）

- 12月 第2回～第4回北京教育交流訪問団派
- 2月 報告会開催
- 3月 報告書300部作成、関係者に配付



2012年（平成24年）

- 4月 北京市教育委員会何劲松副主任
首都師範大学附属中学金晓莉副校長他1名が市長表敬
福山市教育委員会と北京市教育委員会との教育交流等に関する覚書を再締結
- 12月 第5回北京教育交流訪問団派遣
- 2月 報告会開催 150名参加
- 3月 報告書300部作成、関係者に配付



2013年（平成25年）～2016年（平成28年）

- 12月 第6回～第9回北京教育交流訪問団派遣
- 2月 報告会開催
- 3月 報告書300部作成、関係者に配付

2017年（平成29年）

- 12月 第10回北京教育交流訪問団派遣
福山市教育委員会と中国教育国際交流協会及び渋谷育英会との教育交流に関する協定書に調印
- 2月 報告会開催 119名参加
- 3月 報告書250部作成、関係者に配付

